

## 精密検査(確認検査)における HTLV-1 抗体検査結果が陽性であった妊婦の方へ



先日、あなたから採血して調べた HTLV-1 抗体検査の精密検査結果は陽性でした。この結果は、「HTLV-1 に感染している可能性が高い」ことを意味し、HTLV-1 キャリアであると考えられます。

以下に HTLV-1 キャリアとして知っておいていただきたいことをご説明します。主治医からの説明は、HTLV-1 キャリアであるご本人に対して行うものですが、ご主人やその他のご家族への説明を希望される場合は、主治医にその旨をお伝えください。

かかりつけの産婦人科以外に、愛知県では、お母さん自身のことやお子さんの授乳方法、お子さんの検査など、専門医療機関でも相談を実施しております。詳しくは、主治医にお尋ねください。

また、今後お母さん自身のこと、お子さんのことなど、色々な不安があると思います。お住まいの市町村では、家庭訪問や乳幼児健康診査などを通して、キャリアのお母さんの支援を行っていきます。支援を希望される場合は、お住まいの市町村に情報提供することにご同意いただきますようお願いいたします。



## 【知っておいていただきたいこと】

### 1) HTLV-1 キャリアとは何ですか？

一般的に、ウィルスに感染し、そのウィルスが体内に残っていても、何も病気を発症していない人のことを「キャリア」と言います。ウィルスに感染しても病気を発症するとは限りません。

実際、私達の体の中には何種類ものウィルスが持続感染、または潜伏しており私達は皆、何らかのウィルスのキャリアであると言えます（例「水ぼうそう」）。

「HTLV-1」というウィルスに感染していても、何も病気を発症していない人のことを「HTLV-1 キャリア」と言います。

### 2) HTLV-1 ウィルスはどんなウィルスですか？

HTLV-1 は私達のリンパ球（免疫を司る細胞、白血球の一つ）に感染し、一生そこに留まり持続感染状態になります。ほとんどのHTLV-1 キャリアの方は、病気を発症することなく一生を過ごしますが、一部の方は、成人T細胞白血病（ATL）、やHTLV-1 関連脊髄症（HAM）などの病気を発症します。

### 3) ATLやHAMとはどんな病気ですか？

ATLとはHTLV-1に感染したリンパ球ががん化したもので、白血病になるタイプとリンパ腫になるタイプがあります。ATLの発症は40歳頃まではほとんどなく、それ以降年間キャリア約1,000人に1人の割合で発症（生涯を通じての発症率は5%です。）し、男性に発症することが多いとされています。

HAMは30～50歳位の発症が多く、年間キャリア約3万人に1人の割合で起こる病気で歩行障害や排尿障害が起こります。

### 4) ATLやHAMを防ぐにはどうしたら良いですか？

一旦キャリアになった方がATLやHAMの発症を防ぐ方法は、まだ見つかっていません。現在のところこれらの病気を防ぐ唯一の方法はキャリアになることを防ぐことです。特にATLは母子感染によってキャリアになった方だけに発症する病気であるため、母子感染を防ぐことがとても大切です。

**5) 子どもの栄養方法をどうしたら良いか迷っています。**

母乳をあげたら絶対感染するわけではありません。また、まったく母乳を与えなかった場合でも感染の可能性がゼロになる訳ではありません。

本来、母乳は赤ちゃんにとって良いものですから、迷うのは当然のことです。しかし、ATLの予防という意味では、それぞれのお母さんにとって無理のない形で母子感染の可能性を少しでも小さくすることは大切なことと考えます。

原則、完全人工栄養をお勧めしていますが、お子さんのことを考えて選んだ栄養方法はどれをとっても「お子さんへの愛情」からくるものですから医療関係者、保健関係者はそれをサポートします。

**6) 子どものことだけでなく、自分自身のことや家族のことなど、他にも知りたいこと、相談したいことがあるのですが相談できる専門病院はありますか？**

かかりつけの産婦人科以外に、愛知県内では、厚生労働省のHTLV-1に関する研究班に協力している医療機関においても相談に応じることができます。主治医にその旨ご相談ください。



**7) 病院以外に相談できる場所はありますか。**

市町村では、家庭訪問や乳幼児健診などを通して子育て支援を行っています。気軽にご相談ください。

また、県内保健所では、HTLV-1に関する全般的な相談に対応しております。家族の方のことなどご心配なことがありましたらご相談ください。

**8) 子どもへの関わり方で気をつけることはありますか？**

栄養方法のこと以外には特に気をつけることはありません。

**9) 子どもが感染したか確認するにはどうしたら良いですか。**

子どもに感染したかどうか、確認したい場合は、3歳以降にかかりつけの小児科医や専門医療機関等に御相談ください。

## 【母子感染を予防するための栄養方法】

HTLV-1は主に母乳を介して母子感染します。(ただし、その他の感染経路で低率ですが感染する場合があります。)授乳期間が長いほど感染する率が高くなることが知られています。

3か月以上母乳を飲ませた場合	15%~20%	が感染します。
人工乳のみで育てた場合	約3%	

また、満3か月(90日を越えない期間)までの短期間のみの母乳栄養であれば、人工栄養とあまり感染率が変わらなかったという報告もあります。

したがって、子どもへの感染の可能性を低くするための方法は  
**①母乳を与えずに人工乳のみで育てる方法(完全人工栄養)。**

原則として、完全人工栄養をお勧めしています。

**②母乳を与える期間を3か月まで(90日を越えない期間)与え、その後人工乳に切り替えて育てる方法(短期母乳栄養)。**

**③母乳を搾乳し一旦凍結してから飲ませる方法(凍結母乳栄養)。**

母乳を凍結することでウィルスの感染力を失わせる可能性はあるがデータ数が少なく確実ではない。

現在、ワクチンや抗ウィルス薬は開発されていないため、親の意思による栄養方法の選択以外には、感染の可能性を減らす方法はありません。

